おれ達は何故総同盟と戦ふか!!

要求を貫徹するために!
貫徹した條件を守るために!

(一) 労働者は総同盟の正体を見破れ!

諸君!! 総同盟は昔は日本に於ける唯一の戦斗的な労働組合であった。旧評議会がわかれ、組合同盟が別れてから総同盟は戦斗力の抜け切ったヌケガラ組合となった。

だが総同盟もたまんない程臆病者でく資本家と戦ふこともある。が一度我々が納まれば、そろく資本家と取引を始める。だ。大崎の岡部電気では資本家の手に飯らされて、総同盟の手で(松駒の手だ)十四名の組合同盟の会員を首にした。土井左作と云ふのが元岡部電気の人事係をしながら総同盟の幹部をやってゐた。

川崎では東京製鋼では全従業員が総同盟の組合員であ[illegible]的労働者は片端から不良組合[illegible]

今その手でない総同盟の手で首を切られた。だ

それもその筈、東京製鋼労働[illegible]

次郎(総同盟中央委員)は東京製鋼[illegible]の庶務課の社員で月給から貰って[illegible]

総同盟ではこうした資本[illegible]と云って全ての資本家に宣傳して居る。一[illegible]「[illegible]約」は

労働争議のスカップ(争議中は資本家に労働者を[illegible]つけて)があるが、遠からず総同盟もそうなるであらう。

そして資本家の手先を勤めることを運動の精神とする総同盟とはおれ達はあらゆる資本家との斗争を経て、総同盟がのさばりまわる場合先づこれを徹底的にやっつけなければならないのだ。

何故か。おれ達は、資本家にぶつかる前に先づ資本家の手先(総同盟ども)打突かるのだから、そこで資本家の手先総同盟をやっつけることは、また資本家をやっつけることになるのだ。

(二) エビで鯛を釣る総同盟

此争議でも見給へ、総同盟が若し諸君を傷たせ、諸君の要求を貫徹せしめ様とするならば何よりも先づ鋼板の兄弟諸君と手を結んだであらう。それは先づ第一に鋼板の本部である世部労働組合との共同が絶対必要であったのだ。

それだのに総同盟は争ぎが起れ指導を握ればよいのだ。[illegible]あるから!! だから大東工業の争議でも争議団に割り込んだり、争議費金(?)をつくんだりして争議団は一層総同盟の手に入った。

議団は一層総同盟のものとなり、それは鋼板の兄弟と世[illegible]

誰か、それは鋼板の兄弟と[illegible]

総同盟は争議を買ひん[illegible]

売るために、

総同盟は今や米俵や、サイ[illegible]

家との取引と云ふ鋼をつらうし[illegible]

(三) 貫徹した條件を組合

見たまへ、総同盟は宣伝的[illegible]に鋼板の兄弟と、世部労働組[illegible]

[illegible]る流動を[illegible]れをこ[illegible]か、[illegible]工場[illegible]鋼板の代[illegible]代表者を[illegible]

会交渉を続行して我てる

そして、おれ達こそ諸君の[illegible]

いや儀を納めて、あるのだ。

ことは、こうして鋼板の兄弟や、青年同盟が諸君と共に、会件を何うして會社から再び[illegible]て行くか、その方法は一つだけ

「労働組合で守れ」と

一度労働組合を失つたが為には、これ再び労働組合を組[illegible]力を以て諸君の身を会社から

その労働組合は資本家の[illegible]ない。

鋼板の兄弟と会ひ、世部労働[illegible]

堅く結び、諸君がかつてあ[illegible]

[illegible]起つ!!

[illegible]を突き飛ばせ
[illegible]たせろと—、

鋼板反対、総同盟反対スト[illegible]達は断乎断じて工場内に[illegible]た。ストライキになると道々に[illegible]き工場で労働者も(一)が[illegible]農青年同盟の共同斗争[illegible]設立として組合同盟の應[illegible]全部かに新たに大衆の兄弟[illegible]東工業に突きかけ、威力を

[illegible]増のこと

[illegible]き主替へること

[illegible]和衷会で要求の半分をうかと云ふ者があった。

[illegible]同盟の代表者達はいきりたんだ。おれたちの斗志は燃え上がってゐるのにやめられるか」

[illegible]可決!!

[illegible]た履行すること

[illegible]撤

[illegible]た!!

見限った、だが我々が納った[illegible]に於て、鋼板支部と力を会社に対抗し始めた。

総同盟で

三月三十一日の朝

争議団に総同盟の出張斗士が一人出張し、争えないところか、反感七八人つくりぐしく出争議団を占有してゐる、労農青年同盟の斗士が社民党尾久分会の事務所に行ってきいて見ると

老分会長の岡田君

「寝込みをやられたんです、弾圧です。尖鋭化してかへっていいでせう」

社民らしくもない元気……

未だ一かけらの要求も通らない内に、我々の[illegible]力はすでに次のぬき條件を要徹した

1、全体日の出勤二割増
2、請負利益お限撤廃
3、健康保険金の主替
4、食堂建設
5、退職手当文給の履行

残るところは賃銀問題、鋼板反対、労働組合加入の自由だ。だが此の三つこそ労働者の要求の根本問題だ、それはまた我々は此の争議を通じて、大東工業の再組織と北部労働組合の戦斗化と総同盟の香具師共を階級的にブチノメスと云ふ重大な任務を持ってゐるのだ。俺んで抜いた刀を中途半端で納められるかと。

北部労働は全部を挙げての活動となった

労農青年同盟城北班は斗争の先頭に動掛かした。

鈴文、松駒の総同盟にのさばらすな!—

城北を戦斗的労働組合でかためろ!—